

略 歴

阿部 恭助 あべきょうすけ 1822-1902

- 文政5年¹⁸²² 尾去沢御銅山外方主役阿部権八の長男として尾去沢鹿沢に生まれた。幼少から俊才で12才の頃、御銅山御役方の一条基定に従い江戸に遊学。経済学、冶金学を学んだ。師は佐藤信淵の子、昇庵である。帰郷後、長く御銅山床屋主役（製煉の一切を取り仕切る）等を歴任。後年、御銅山日払主役（経理輸送の一切を取り仕切る）。
- 明治5年¹⁸⁷² 御銅山が新政府に接収された以後も御役方（資材、日用物資の管理、公事を取り仕切る）として鉱山発展に長く貢献した。
- 明治35年¹⁹⁰² 8月25日尾去沢軽井沢で死去、享年81歳。

立山 第四郎 たてやまていしろう 1867-1937

- 慶応3年¹⁸⁶⁷ 父周蔵、母ミツ次男、毛馬内に生まれ叔父の立山周助の養嗣子となった。
- 明治41年¹⁹⁰⁸ 立山、内藤家の小作人組合を作り、地主と小作人の親善を図った。
- 明治43年¹⁹¹⁰ 瀬田石、森崎、西町、七滝地区に県内初の暗渠排水や耕地改善の指導。
- 明治44年¹⁹¹¹ 気象観測、農事奨励の功に依り、緑白紫有功章を贈られた。
- 大正2年¹⁹¹³ 翁夫妻の銀婚式の記念事業として巨額の私費で、立山文庫を創設した。
- 大正9年¹⁹²⁰ 自動車会社を勝又清毅氏と設立し、初めて鹿角に自動車を走らせた。
- 昭和3年¹⁹²⁸ 宮中より観桜会に召され、重ねて11年農事功労者として観菊御会に召される光栄に浴した。翌年7月、病を得て逝去する。享年71歳。

川村 竹治 かわむらたけじ 1871-1955

- 明治4年¹⁸⁷¹ 花輪横町川村俊治の長男、小学校卒業後高屋学校の代用教員勤務。
- 明治21年¹⁸⁸⁸ 上京苦学、英語学校、一高、東大卒、30年高文合格内務省府県課出仕。
- 明治31年¹⁸⁹⁸ 末松通相の要請で為替貯金管理所、長崎、多度津、横浜郵便局長を歴任す。
- 明治36年¹⁹⁰³ ローマ万国郵便会議に出席、欧米郵便制度調査、神戸、大阪郵便局長。
- 明治41年¹⁹⁰⁸ 内務省参事官で警保局警務課長、台湾課長、42年総督府警視総長任官。
- 明治44年¹⁹¹¹ 和歌山、香川県知事、一時退官、大正6年青森県知事を拝命する。
- 大正7年¹⁹¹⁸ 原内閣の警保局長、11年貴族員議員、内務次官、満鉄社長、昭和3年台湾総督。
- 昭和7年¹⁹³² 大養内閣司法大臣、5.15事件で退任、勳一等瑞宝章、旭日大綬章授与さる。

諏訪 富多 すわとみた 1883-1981

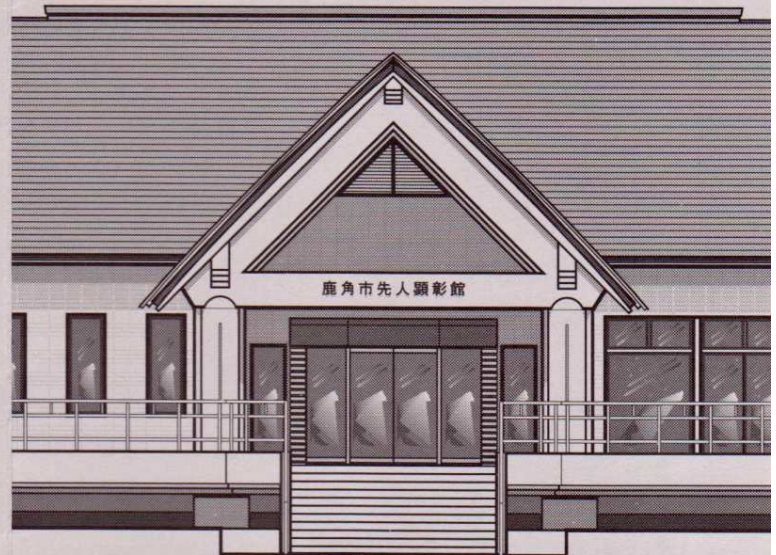
- 明治16年¹⁸⁸³ 大湯、諏訪音治の長男として生まれた。13歳の時負傷して左眼失明。
- 明治43年¹⁹¹⁰ 東京帝国大学哲学科卒業。帰郷して大湯村農会会長となった。
- 大正7年¹⁹¹⁸ 大湯国有林開墾組合長として大清水の原生林153haの開拓を指導。
- 大正10年¹⁹²¹ 大湯、錦木、柴平三ヶ村耕地整理組合長として中通台地の耕地造成に努力。
- 昭和7年¹⁹³² 大湯郷土研究会を組織し、会長となって環状列石の調査保存につとめた。
- 昭和22年¹⁹⁴⁷ 大湯町長二期、昭和40年、河川漁業組合長としてニジマス養殖を推進。
- 昭和44年¹⁹⁶⁹ 勳六等単光旭日章受章。昭和49年、秋田県文化功労者、鹿角市功労者として表彰を受けた。昭和56年4月死去。享年98歳。

精神文化の礎を築いた人々…

先人顕彰シリーズ③

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集、保存、事跡の調査研究と公開展示をいたしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順次展示紹介してまいります。



鹿角市先人顕彰館 ☎・FAX 0186-35-5250
〒018-53 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地の2



阿部 恭助 あべきょうすけ 1822-1902 鉾山日記、阿津免草の筆者

南部藩の財政を支えた尾去沢御銅山の日払主役の要職を勤め別名を茂郷と呼び鉾山振興発展に貢献。長年の功績により藩主より逸通の号が与えられ逸通恭助と呼ぶ。文筆、博学の人で雅号を好正堂の筆名で、文久3年(1863)から明治4年(1871)の御銅山の諸事記録「阿津免草」15巻を始め、見聞雑誌、公武風聞集、御銅山御定目、飲食物調整法、応急薬法など多くを書き留めた。俳号を清風亭東月の名で、俳句、和歌の膨大な句集を残した。また版画や錦絵に造詣深く数多く収集した。

諸記録は当時の世相や鉾山史解明の貴重な資料となっている。



立山第四郎 たてやまていしろう 1867-1937 郷土の産業、教育に貢献

第四郎翁の数多い功績の中で周知されているのは立山文庫の創設で、年々巨額の私財で書籍を購入し立山文庫の経営に当たった。

本県最初の暗渠排水や耕地整理(瀬田石、森崎、西町、七滝地区)等の農地改良をし篤農家第四郎と高く評価され、種苗交換会の花形になった。

また同志と十和田湖観光開発や鹿角電灯会社を設立した。

十和田町では胸像を贈り、その功績を讃えた。昭和32年、内藤、立山両家の小作人組合有志や立山頌徳会等で、翁の功績を碑に刻して後世に伝えている。地方の産業文化の向上に貢献する。



川村 竹治 かわむらたけじ 1871-1955 育英会を創立した司法大臣

俊治長男、花小卒、教員手伝、18歳で上京苦学、明治21年一高合格。一家移住、大里文五郎氏の援助で生計を立て、竹治は夜学の講師で稼ぐ。先輩の応援を得て明治30年東大法科を卒業高文に合格し内務省に入る。通信省に移り都市の郵便局長を歴任ローマ万国郵便会議出席。内務省に戻り台湾警視総長、各県知事、内務次官、南満州鉄道社長等の後、昭和3年台湾総督就任。昭和7年3月犬養内閣の司法大臣に就任間もなく5.15事件で退任す。勳一等瑞宝章及び旭日大綬章を授与。苦学の体験により育英事業を提唱、寄附金三百円で発足させ後輩を育てた。



諏訪 富多 すわとみた 1883-1981 地域産業文化の発展に貢献

東京帝大では哲学を専攻、学究を志したが父の死によって帰郷。推されて大湯村農会会長となり農林業の振興に力を尽くした。大清水開墾では私財を投じて入植者を援助し、精根こめて指導に当たった。また、北奥羽開発協議会設立を首唱し、その交流幹線として大湯三戸間道路の改修、国道昇格、バス運行の実現など、雄大な構想のもとに地域の発展に献身的に努力した。

大湯環状列石の調査にも力を注いで特別史跡指定への道を開き、哲学的思索に基づいた十和田高原神都説等を発表した。

霊泉と号し、書画のほか短歌、俳句、漢詩などをよくした。